

マネージメント情報

※ 冬季間の消毒槽の設置方法について

改正家畜伝染病予防法がH23.10.1に施行され、畜舎内外含め敷地内の消毒をより厳しく実施するよう求められるようになりました。

今回は冬季間の消毒槽の設置方法についてお知らせします。(別紙)

具体的には消毒液に不凍液(冬用ウォッシャー液)を添加する方法で、十勝家畜保健衛生所が消毒薬に不凍液を添加した時の影響という事で実施した試験データであり、最後にこの方法を推奨するものではないという但し書きが書かれていますが、水だけで希釈した消毒液よりははるかに実用的かと思ひ紹介しましたので参考にして下さい。

具体的には、まず水で溶かし不凍液を加えた量に対しての倍率になります。

例-1 … 20Lで500倍の消毒液を作る場合

ビルコンSを使用するとして 40gを20Lにする→500倍

40gを500ml程度の水に溶かす → 残りの19.5Lの不凍液でうすめる

正確には不凍液だけで500倍にはなりませんが一度水で溶解すると均一になりやすいです

例-2 … 1000倍にする時は 40g → 20gに

2000倍にする時は 40g → 10gに すれば良いだけです。

別表のように、不凍液だけで希釈した場合には戸外(-20℃)でも凍結するには48時間かかりますので2日間は大丈夫ということになります。

凍結防止剤として今はなかなか手に入りにくいですが、プロピレングリコールを利用する場合には2倍希釈でも不凍液(冬用ウォッシャー液)と同等の効果があります。

また、処理室の入り口がサッシの引き戸の場合にも不凍液(クーラント)をレールのところにまく方法もとても有効です。

.....
・本当に早いもので今年も残すところ10日を切ってしまいました。

大きくは3.11の東日本大震災、安愚楽牧場の倒産、ここに来て金日正の死去、ダルビッシュのポスティングでの大リーグ(テキサスレンジャーズ)入り?…今年もいろいろな事がありました。

当社としては、住谷・真、二人の新人獣医師の入社と阿部獣医師の退職がありました。そんな流れの中で秋から私自身診療にかかわるようになり、佐竹副社長から蹄病治療、富岡獣医師からは子牛の補液のイロハを習い…50半ばにして臨床獣医師として再出発と相成りました。16年ぶりの臨床はとても楽しいもので、私が携わっていた頃の獣医療と比べると考え方も治療方法も実に明解でした。あの頃の自分は何をやっていたのかなあ~と思う今日この頃です。

まだまだ新人2人には負けられないさ~と思いつつも、最近はこちらちょっと体力不足を感じているところです。意地を張らず、無理をせずに自分のペースでみんなの診療の手助けができれば良いかな?と自嘲気味に考えるようにしています。

今年もほんとうにお世話になりました。

TPP等では来年は何かと騒がしそうな年になりそうですが、酪農の基本を忠実に守り皆様方の牛の健康に貢献できるよう精進したいと考えています。

良いお年をお迎え下さい。